

トゥバ語とサハ語の語彙対照 *

A Lexical Contrastive Study between Tyvan and Sakha

江 畑 冬 生

EBATA Fuyuki

This article provides a contrastive study of the lexicons of Tyvan and Sakha. Although the two target languages are classified into the Siberian subgroup of the Turkic language family, they do not exhibit straightforward lexical correspondence. First, this study demonstrates sound correspondences between Tyvan and Sakha primarily for initial consonants, presenting not only typical patterns but also minor exceptions. Second, this study makes a comparison of verb and adjective stem-final forms between the two languages. Three strategies exist to avoid a stem-final short vowel, which is not allowed in Sakha: addition of a consonant to verb stems and lengthening or deletion of a stem-final short vowel. Contrastive analysis reveals that Sakha adjectives often have an additional suffixal element compared with Tyvan ones. Finally, this study focuses on the meaning correspondence in body-part and bird names. Significant differences are found in these semantic areas.

キーワード： チュルク語族，音対応，意味変化

Keywords: Turkic, Sound correspondence, Semantic change

1. はじめに

本論文では、チュルク語族に属するトゥバ語とサハ語の語彙対照を行う。ここで取り上げる2つの言語はいずれも北東語群に下位分類され、系統的にも地理的にも比較的近接している。以下ではまず、両言語の語彙に見られる音対応と若干の例外について整理する。次に、両言語の動詞および形容詞の語幹末の音形について対照する。最後に、身体部位名詞と鳥類名称に関する両言語間の意味のずれに関する指摘を行う。

* 本研究は、科研費（課題番号 17H04773, 18H03578, 18H00665, 20H01258, 21H04346）および東京外国語大学アジア・アフリカ言語文化研究所の共同利用・共同研究課題「「アルタイ型」言語に関する類型的研究(2)」「チュルク諸語における情報構造と知識管理 —音韻・形態統語・意味のインターフェース—」の支援を受けたものである。

本論文のデータは、辞書および筆者によるフィールドワークから得られたものである¹。トゥバ語の辞書として、Tenishev (1968), Monguš (1994), Tataritsev (2000-2008), 中嶋 (2008) を参照したほか、中嶋 (2006) のデータも参照した。サハ語の辞書として、Afanas'ev and Xaritonov (1968), Sleptsov (1972), Sleptsov (2004-2018) を参照した。

2. 音対応と例外

本節では、トゥバ語とサハ語の間に見られる音対応と若干の例外について、語頭子音のケースを中心に整理して示す。ただし厳密な音韻規則を提示するというよりは、両言語間の対応に関する一定の傾向を示すに留まる。ロシア語からの借用語は考察対象から除くが、モンゴル系言語からの借用語は含むものとする。

以下で提示する例は、トゥバ語正書法による辞書順により並べる。ただし語中あるいは語末子音の例を参考として示す場合には、語頭子音の例の後に配置する。本節では、該当する語例が多数になる場合でも 10 例までを示すことにする。接尾辞付加により語幹の音形に交替が生じる場合には、日本語訳の後に交替形（動詞語幹にアオリスト接辞が付加した形、名詞語幹に 3sg 所有接辞が付加した形）を併記する。

2.1 両唇音の対照

本節では、両唇音として /b, p, m/ の対応関係を示す。トゥバ語 /b/ は、概ねサハ語の /b/ に対応する。

(1) トゥバ語/b/ : サハ語/b/

baar 「肝臓」	bïar 「肝臓」
baldï 「斧」	balta 「ハンマー」
balïk 「魚」	balïk 「魚」
bar 「ある」	baar 「ある」
belek 「贈り物」	belex 「贈り物」
bil- 「知る」	bil- 「知る」
bir 「1」	biir 「1」
bo 「これ」	bu 「これ」
bok 「ごみ」	böx 「ごみ」
bït 「シラミ」	bït 「シラミ」

¹ 筆者はサハ共和国ヤクーツク市におけるサハ語現地調査（2000年～2015年）およびトゥバ共和国クズル市におけるトゥバ語現地調査（2014年～2019年）を行った。

ただしトゥバ語 /b/ が、サハ語の /m/ または /p/ に対応する少数の例外も見られる。

(2) トゥバ語/b/ : サハ語/m/

božaa 「白癬」	možuun 「白癬」
buduk 「枝」	mutuk 「枝」
burun 「以前」	murun 「鼻」 (munn-a)
büüle 「菌茎」	miile 「菌茎」

(3) トゥバ語/b/ : サハ語/p/

bagay 「悪い」	paxay (嫌悪感を表す間投詞)
------------	-------------------

トゥバ語には少数の /p/ 始まりの語が存在する。これらはサハ語の /b/ で現れる。なおサハ語では、ごくわずかな例外（間投詞とオノマトペ）を除き語頭に /p/ は現れない。

(4) トゥバ語/p/ : サハ語/b/

paga 「カエル」	baqa 「カエル」
par 「虎」	baabir 「虎」
por 「粘土」	buor 「土」
pöš 「シベリア松」	bes 「松」

トゥバ語 /m/ は、(5)のようにサハ語でも /m/ で現れることが多いが、(6)のようにサハ語の /b/ に対応することもある。

(5) トゥバ語/m/ : サハ語/m/

maktal 「賞賛」	maxtal 「感謝」
mal 「家畜」	mal 「もの」
mana- 「待つ、見張る」	manaa- 「見張る」
men 「私」	min 「私」
meŋ 「あざ、ほくろ」	meŋ 「あざ、ほくろ」
moyun 「首」 (moyn-u)	mooy 「首」 (mooñŋ-o)
mun- 「騎乗する」	miin- 「騎乗する」
mün 「スープ」	miin 「スープ」
mında 「ここに」	manna 「ここに」
miyis 「角 (つの)」	muos 「角 (つの)」

(6) トゥバ語/m/ : サハ語/b/

maadīr 「英雄」	bootur 「英雄」
mīyīt 「コクチマス」	bīyīt 「コクチマス」
sūme 「助言」	sūbe 「助言」 (母音間の例)
xemir- 「かじる」	kebiy- 「かじる」 (母音間の例)

2.2 歯茎破裂音の対照

本節では、歯茎音のうち /d, t/ の対応関係を示す。トゥバ語 /d/ は、サハ語の /d, t/ のいずれかに対応する。数の上では、サハ語 /t/ に対応する例の方が多い。

(7) トゥバ語/d/ : サハ語/d/

daa 「も」	da 「も」
dalay 「海」	dalay 「深淵」
di- 「言う」	die- 「言う」
deski 「平らな」	dexsi 「平らな」
dūṅgūr 「太鼓」	dūṅūr 「太鼓」
deer 「～まで」	dieri 「～まで」

(8) トゥバ語/d/ : サハ語/t/

daaš 「騒音」	tīas 「音」
day 「2歳の仔馬」	tīy 「2歳の仔馬」
damīr 「脈」	tīmīr 「脈」
daš 「石」	taas 「石」
demir 「鉄」	timir 「鉄」
derit- 「汗をかく」	tirit- 「汗をかく」
diš 「歯」	tīis 「歯」
doy 「粘土」	tuoy 「粘土」
dumaa 「鼻風邪」	tumuu 「鼻風邪」
dürgen 「速い」	türgen 「速い」

トゥバ語 /d/ がサハ語の /z/ に対応する例外も1例のみ存在する。

(9) トゥバ語/d/ : サハ語/z/

düley 「聾」	züley 「聾」
-----------	-----------

トゥバ語 /t/ は、おおむねサハ語の /t/ に対応する。

(10) トゥバ語/t/ : サハ語/t/

tal 「ヤナギ」	talax 「ヤナギ」
teve 「ラクダ」	taba 「トナカイ」
tep- 「蹴る」	tep- 「蹴る」
terek 「ドロノキ」	tirex 「ドロノキ」
tos 「白樺の樹皮」	tuos 「白樺の樹皮」
tot- 「満腹する」	tot- 「満腹する」
tuman 「霧」	tuman 「霧」
tur- 「立つ」	tur- 「立つ」
tut- 「つかむ」	tut- 「つかむ」
tirt- 「引っ張る」	tart- 「引っ張る」

わずかな例外として、トゥバ語 /t/ が サハ語の /d/ または /s/ に対応するケースもある。

(11) トゥバ語/t/ : サハ語/d/

tereŋ 「深い」	diriŋ 「深い」
------------	------------

(12) トゥバ語/t/ : サハ語/s/

ton 「外套」	son 「外套」
tig 「縫い目」	siik 「縫い目」
öt 「胆汁」	ös 「胆汁」 (語末子音の例)

2.3 無声軟口蓋音・口蓋垂音の対照

本節では、/k, x/ の対応関係を示す。トゥバ語では、/k/ は [k ~ q] の音価を持つ。サハ語では、/x/ は [q ~ χ] の音価を持つ。サハ語の /k/ と /x/ は語頭で相補的な分布を示し、/x/ は母音 /a, o/ の前に現れ /k/ はそれ以外の場合に現れる。これを踏まえて以下では、サハ語における語頭子音の直後の母音の違いにも留意しつつ例を示すことにする。

トゥバ語 /k/ は、(13)のようにサハ語の /k/ に対応する場合と、(14)のようにサハ語の /x/ に対応する場合がある。

(13) トゥバ語/k/ : サハ語/k/ (サハ語 /a, o/ 以外の前)

kel- 「来る」	kel- 「来る」
kir- 「入る」	kiir- 「入る」
kök 「青い」	küöx 「青い, 緑」
kör- 「見る」	kör- 「見る」
kur 「帯」	kur 「帯」
kut- 「注ぐ」	kut- 「注ぐ」
küdee 「婿」	kütüöt 「婿」
küş 「力」	küüs 「力」
kžžin 「冬に」	kihin 「冬 (に)」
kim 「誰」	kim 「誰」

(14) トゥバ語/k/ : サハ語/x/ (サハ語 /a, o/ の前)

kađin 「女王」	xotun 「女主人」
kažan 「いつ」	xahan 「いつ」
kažirik 「うろこ」	xatirik 「うろこ」
kayga- 「驚く」	xayгаа- 「ほめる」
kayı 「どの」	xaya 「どの」
kara 「黒い」	xara 「黒い」
kas- 「掘る」	xas- 「掘る」
kogzu 「～に沿って」	xotu 「～に沿って」
kolun 「(馬の) 腹帯」	xolun 「(馬の) 腹帯」
(konn-u)	
kort- 「恐れる」 (korg-ar)	xork- 「恐れる」 (xorк-or)

トゥバ語 /x/ も, (15)のようにサハ語の /k/ に対応する場合と, (16)のようにサハ語の /x/ に対応する場合がある.

(15) トゥバ語/x/ : サハ語/k/ (サハ語 /a, o/ 以外の前)

xir 「汚れ」	kir 「汚れ」
xöl 「湖」	küöl 「湖」
xölege 「影」	külük 「影」
xöm- 「埋める」	kömp- 「埋める」 (köm-ör)
xönü 「整然とした」	könö 「平らな, 真っ直ぐな」

xörük 「ふいご」	küört 「ふいご」
xül 「灰」	kül 「灰」
xün 「太陽, 日」	kün 「太陽, 日」
xin 「鞞」	kīn 「鞞」
xīraa 「霜」	kīria 「霜」

(16) トゥバ語/x/ : サハ語/x/ (サハ語 /a, o/ の前)

xaar- 「焼く」	xooruy- 「焼く」
xadiŋ 「白樺」	xatiŋ 「白樺」
xar 「雪, 年齢」	xaar 「雪」
xan 「血」	xaan 「血」
xan- 「満足する」	xan- 「満足する」
xaram 「吝嗇」	xaram 「吝嗇」
xaya 「岩」	xaya 「山」
xolba- 「結ぶ」	xolboo- 「結ぶ」
xoyug 「濃厚な」	xoyuu 「濃い」
xīmīš 「ひしゃく」	xomuos 「ひしゃく」

2.4 有声軟口蓋音・口蓋垂音の対照

本節では、/g, ɣ/ の対応関係を示す。トゥバ語では、/g/ [g ~ ɣ] は語頭に現れない。サハ語でも、唯一の例外である *gin* 「する」を除き /g, ɣ/ は語頭に現れない。そこで以下では、トゥバ語の母音間および語末の /g/ がサハ語でどのように現れるのかに着目した対照を行うことにする。

母音間では、トゥバ語 /g/ はサハ語で /g, ɣ/ として現れることがほとんどである²。

(17) トゥバ語母音間の/g/ : サハ語/g, ɣ/

araga 「酒」	arigī 「酒」
idege- 「信じる」	iteɣey- 「信じる」
kegir- 「げっぷする」	keɣert- 「げっぷする」
paga 「カエル」	baɣa 「カエル」
sagin- 「思う」 (sakt-ir)	aɣin- 「懐かしむ」 (axt-ar)
süge 「斧」	süge 「斧」

² 「～での」を表す派生接辞も同様の対応を示す: *xöl-degi* 「湖での」と *küöl-leexi* 「湖での」, *xoora-dagi* 「町での」と *kuorat-taaxi* 「町での」など。

tögerik 「丸い」	tögürük 「丸い」
tögül- 「こぼれる」 (tökt-ür)	toğun- 「こぼれる」 (toxt-or)
čaga 「襟」	saka 「襟」
egec 「やすり」	igii 「やすり」

ただし(18)では、同じく母音間のトゥバ語 /g/ がサハ語では /x/ または /xx/ に対応している。

(18) トゥバ語母音間の/g/ : サハ語/x, xx/

sogur 「盲目」	soxxor 「盲目」
kuyga 「頭皮」	kuyaxa 「頭皮」

(19)に示す 1 例では、サハ語では脱落し長母音が生じている。

(19) トゥバ語母音間の/g/ : サハ語で脱落

čügür- 「走る」	süür- 「走る」
-------------	------------

語末では、トゥバ語の /g/ は(20)のようにサハ語で脱落し先行の母音と融合・長母音化するものと、(21)のようにサハ語 /k, x/ に対応するものがある。

(20) トゥバ語語末の/g/ : サハ語で脱落し長母音化³

aarig 「病気」	iarīi 「病気」
bag 「綱, ひも」	bīa 「ひも」
dag 「山」	tīa 「森」
izig 「あつい」	itii 「あつい」
kīdig 「端, 岸」	kītīi 「岸」
sag- 「搾乳する」	īa- 「搾乳する」
sug 「水」	uu 「水」
čadag 「徒歩」	satīi 「徒歩」
čidig 「鋭い」	sītīi 「鋭い」
čilig 「骨髄」	sīlii 「骨髄」

³ トゥバ語語末の/k/が、/g/の場合と同様にサハ語で脱落し長母音化したと見なせるものも 1 つだけ見つかる: *dūk* 「毛」と *tūū* 「毛」。

(21) トゥバ語語末の/g/ : サハ語/k, x/ ⁴

duyug 「ひづめ」	tuyax 「ひづめ」
kandig 「どのような」	xannik 「どのような」
mündig 「このような」	mannik 「このような」
odag 「かまど」	ohox 「かまど」 ⁵
sug 「～一家」	aax 「～一家」
surag 「消息」	surax 「噂」
sildag 「口実」	siltax 「動機, 目的」
tig 「縫い目」	siik 「縫い目」
indig 「そのような」	onnuk 「そのような」

2.5 無声摩擦音・破擦音の対照

本節では, /s, ç, š/ の対応関係を示す. トゥバ語 /s/ は, サハ語では子音なしになるか, あるいは /s/ に対応する.

(22) トゥバ語/s/ : サハ語子音なし

sadig 「商売」	atï 「商売」
sal 「いかだ」	aal 「船」
semis 「肥えた」	emis 「肥えた」
sen 「君」	en 「君」
siŋ- 「しみこむ」	iŋ- 「しみこむ」
sös 「ことば」	ös 「ことば」 (単独での使用は稀)
sug 「水」	uu 「水」
suk- 「入れる」	uk- 「入れる」
sun- 「差し出す」	uun- 「差し出す」
süt 「ミルク」	üüt 「ミルク」

(23) トゥバ語/s/ : サハ語/s/

salgïn 「微風」	salgïn 「空気」
sana- 「数える, みなす」	sanaa- 「考える」

⁴ proprietive 接辞も(21)と同様の対応を示す: *küč-tüg* 「強い」と *küüs-teex* 「強い」, *amdan-nig* 「おいしい」と *amtan-naax* 「おいしい」など.

⁵ サハ語の *ohox* 「かまど」に対応する語彙は, ここに示したトゥバ語 *odag* 「かまど」ではなく *ožuk* 「五徳」であると考えられるべきかもしれない.

seriin 「涼しい」	sörüün 「涼しい」
sogur 「盲目」	soxxor 「盲目」
solun 「興味深い」	sonun 「ニュース」
soruk 「意志」	soruk 「目的」
sööm 「尺」	süöm 「尺」
süge 「斧」	süge 「斧」
sıldis 「星」	sulus 「星」
sirtik 「枕」	sittik 「枕」

トゥバ語 /č/ は、概ねサハ語の /s/ に対応する。

(24) トゥバ語/č/ : サハ語/s/

čaga 「襟」	saka 「襟」
čas- 「間違える」	sīs- 「間違える」 ⁶
čer 「土地」	sir 「土地」
či- 「食べる」	sie- 「食べる」
čot- 「拭く」	sot- 「拭く」
čödül 「咳」	sötül 「咳」
čut 「飢饉」	sut 「飢饉」
čürek 「心臓」	sürex 「心臓」
čil 「年」	sil 「年」
čit 「匂い」	sit 「匂い」

ただしトゥバ語 /č/ は、サハ語 /č, ž/ に対応する例も見られるほか、子音なしで現れることもある。なおトゥバ語 čil 「年」に対応するサハ語の語形には、sil 「年」と žil 「年」の2つがある。

(25) トゥバ語/č/ : サハ語/č/

čartı 「木切れ」	čart 「木切れ」
če 「では、さあ」	če 「では、さあ」
čook 「近い」	čugas 「近い」

⁶ 両方とも補助動詞としての用法「～しかける」も持つ。サハ語の sīs- 「間違える」は、補助動詞の用法では短母音を含む sis- で現れる。

(26) トゥバ語/č/ : サハ語/ž/

čes 「銅, 赤銅」	žes 「赤銅」
čol 「運命」 ⁷	žol 「幸福」
čon 「大衆, 人々」	žon 「人々, 家族」
čil 「年」	žil 「年」

(27) トゥバ語/č/ : サハ語子音なし

čas- 「あける」	as- 「あける」
čaš 「お下げ髪」	as 「髪」 (単独での使用は稀)

トゥバ語 /š/ は、サハ語の /s, č/ のいずれかに対応する。数の上では、サハ語 /s/ に対応する例の方が多い。

(28) トゥバ語/š/ : サハ語/s/

šaš- 「叩く」 (šanč-ar)	sīs- 「つぶす」 (siññ-ar)
šerig 「軍隊」	serii 「戦争」
šilegey 「唾」	sil 「唾」
šime- 「飾る」	simee- 「飾る」
širbi- 「掃く」	sippiy- 「掃く」
šīda- 「できる」	sataa- 「できる」
šīlag 「疲労」	sīlaa 「疲労」
šīray 「顔」	sirey 「顔」
šīk 「湿っぽい」	siik 「湿気」
šīp- 「覆う」	sap- 「閉じる」

(29) トゥバ語/š/ : サハ語/č/

šalbaa 「水たまり」	čalbax 「水たまり」
šinči- 「研究する」	činčiy- 「研究する」
šokar 「斑点」	čuokur 「斑点」
šolban 「明星」	čolbon 「明星」

語頭のトゥバ語 /š/ がサハ語の /ž/ に対応する例外も 1 つ見つかる。

⁷ トゥバ語には、*propriative* 接辞を付加した派生語 *čol-dug* 「幸福な」も存在する。

(30) トゥバ語/š/ : サハ語/č/

šün 「真実」 žiŋ 「本当」

関連して、語末におけるトゥバ語 /š/ がサハ語 /l, r, rt/ に対応する例外も見つかる。

(31) トゥバ語語末の/š/ : サハ語/l, r, rt/

düş 「夢」 tüül 「夢」
 češ- 「ほどく」 süör- 「ほどく」
 eš- 「漕ぐ」 ert- 「漕ぐ」

2.6 有声摩擦音・破擦音の対照

本節では、/z, ž/ の対応関係を示す。トゥバ語ではこれらの子音が語頭に現れないため、母音間のケースを中心に対応関係を見ることにする。

母音間において、トゥバ語 /z/ はサハ語の /s, t/ に対応する（サハ語では /s/ の母音間における異音として [h] が現れる）。サハ語 /s/ に対応する例は (32) に挙げたものくらいしか見つからないが、接尾辞が付加した結果も考慮すると多くの例が存在すると言える：*duz-u*（塩-POSS.3）と *tuuh-u*（塩-POSS.3SG）、*kaz-ar*（掘る-AOR）と *xah-ar*（掘る-PRS）など⁸。

(32) トゥバ語母音間の/z/ : サハ語/s/ [h]

azig 「犬歯」 ahii 「犬歯」
 közü- 「見える」 (köst-ür) köhün 「見える」 (köst-ör)
 küzün 「秋に」 kühün 「秋 (に)」
 kizil 「赤い」 kihil 「赤い」
 tuza 「利益」 tuha 「利益」
 uzun 「長い」 uhun 「長い」

(33) トゥバ語母音間の/z/ : サハ語/t/ ⁹

azir- 「くしゃみする」 iirt- 「くしゃみする」

⁸ 母音間ではないが、/t/ に後続する環境では *kirza* 「ケナガイタチ」と *kirsa* 「北極狐」、*irzay-* 「歯を見せる」と *iržay-* 「歯を見せる」という対応も見つかる。

⁹ 命令法3人称接辞や条件法接辞でも同様の対応が見られる：*töle-zin*（支払う-IMP.3SG）と *tölöo-tün*（支払う-IMP.3SG）、*di-ze*（言う-COND）と *die-ter*（言う-COND）など。なおサハ語には *kihil* 「赤い」に関連して *kiitar-* 「赤くなる」が存在することも指摘しておく。

izig 「あつい」	itii 「あつい」
kazirik 「うろこ」	xatirik 「うろこ」
kazir 「不妊の」	kitarax 「不妊の」
izir- 「嘔む」	itir- 「嘔む」
ezirik 「酔った」	itirik 「酔った」

同じく母音間において、トゥバ語 /z/ は概ねサハ語の /s/ に対応する（やはりサハ語では /s/ の母音間における異音として [h] が現れる）。接尾辞が付加した結果としても多くの例が存在する：*diž-i*（歯-POSS.3）と *tiih-i*（歯-POSS.3SG），*iž-er*（飲む-AOR）と *ih-er*（飲む-PRS）など。

(34) トゥバ語母音間の /z/ : サハ語 /s/ [h]

ažig 「苦い」	ahii 「苦い」
bižir- 「料理する」	buhar- 「料理する」
bižek 「ナイフ」	bihax 「ナイフ」
kažan 「いつ」	xahan 「いつ」
kežee 「晩」	kiehe 「晩」
kiži 「人」	kihi 「人」
kīžin 「冬に」	kīhin 「冬（に）」
öžeen 「復讐」	öhüön 「復讐」
užul- 「服を脱ぐ」 (ušt-ur)	uhul- 「服を脱ぐ」 (ust-ar)
užun 「～のために」	ihin 「～のために」

ただし母音間のトゥバ語 /z/ は、サハ語の /č, l, r, y, ž/ に対応する例も見られる。

(35) トゥバ語母音間の /z/ : サハ語 /č, l, r, y, ž/

bižik 「文字」	bičik 「文字」
üžü- 「凍傷になる」	ülüy- 「凍傷になる」
aži- 「あく」	ariy- 「あく」
xožuda- 「遅れる」	xoyutaa- 「遅れる」
božaa 「白癬」	možuun 「白癬」
eežegey 「凝乳チーズ」	iežegey 「凝乳チーズ」

2.7 軟口蓋鼻音の対照

本節では、軟口蓋鼻音 /ŋ/ の対応関係を示す。両言語ともに、/ŋ/ は語頭に現れない。まず母音間の /ŋ/ に関して、これまでの場合とは異なりサハ語から見ると、サハ語 /ŋ/ がトゥバ語で子音なしで現れるか、/ŋg/ に対応することが分かる。数の上では、トゥバ語 /ŋg/ に対応する例の方が多い。

(36) トゥバ語子音なし：サハ語母音間の/ŋ/

taalay 「口蓋」	taŋalay 「口蓋」
čaa 「新しい」	saŋa 「新しい」
söök 「骨」	uŋuox 「骨」
siir 「腱」	iŋiir 「腱」

(37) トゥバ語語中の/ŋg/：サハ語母音間の/ŋ/ ¹⁰

düŋgür 「太鼓」	düŋür 「太鼓」
maŋgan 「真っ白な」	maŋan 「白い」
möŋgün 「銀」	möŋün 「銀」
möŋge 「永遠の」	meŋe 「無限の、永遠の」
karaŋgi 「暗い」	xaraŋa 「暗い」
deŋger 「天空」	taŋara 「神」
iŋgürzak 「荷鞍」	iŋür 「鞍」
čaŋgi 「こだま」	saŋa 「言葉、話」
čeŋge 「兄嫁」	saŋas 「兄嫁、伯父の妻」

次に語末では、トゥバ語 /ŋ/ がサハ語の /ŋ/ に対応することが多い。ただし(39)のように、サハ語では語末に母音添加がされる例も 3 例見つかる。

(38) トゥバ語語末の/ŋ/：サハ語/ŋ/

baštŋ 「先導者」	bastiŋ 「第一人者」
daŋ 「朝焼け」	tüŋ 「朝焼け」
deŋ 「等しい」	teŋ 「等しい」
diŋ 「リス」	tiŋ 「リス」

¹⁰ トゥバ語 *aŋgay-*「口を開ける」とサハ語 *allay-*「口を開ける」、トゥバ語 *düŋder-*「ひっくり返す」とサハ語 *tüŋner-*「ひっくり返す」、トゥバ語 *muŋgan-*「苦悩する」とサハ語 *muŋnan-*「苦しむ」という対応も見つかる。

doŋ 「凍った」	toŋ 「凍った」
doŋ- 「凍る, 凍える」	toŋ- 「凍る, 凍える」
öŋ 「色」	öŋ 「色」
siŋ- 「しみこむ」	iŋ- 「しみこむ」
xadiŋ 「白樺」	xatiŋ 「白樺」
xüreŋ 「褐色の」	küreŋ 「褐色の」

(39) トゥバ語語末/ŋ/ : サハ語母音添加

aydiŋ 「月明かり」	ïydaŋa 「月明かり」
iriŋ 「膿」	iriŋe 「膿」
oŋ 「右」	uŋa 「右」

なお語末の鼻音に関しては, トゥバ語 /n/ がサハ語の /m, ŋ/ に対応する場合がいくつか散見される.

(40) トゥバ語語末の/n/ : サハ語/m, ŋ/

belen 「準備のできた」	belem 「準備のできた」
kilin 「太い, 厚い」	xaliŋ 「厚い」
šortan 「カワカマス」	sordoŋ 「カワカマス」
šin 「真実」	ziŋ 「本当」

2.8 その他の対応

その他に留意すべき対応として, (41)のようなサハ語で母音挿入が見られるようなペアが存在する.

(41) 母音挿入

argan 「瘦せた」	ïriŋan 「瘦せた」
kuyga 「頭皮」	kuyaxa 「頭皮」
iškin- 「失う」	ihiŋin- 「(手から) 落とす」 (ihikt-ar)

(42)は, メタテシスが生じたと見なせるペアである (メタテシスと母音挿入の両方が見られるものも含む).

(42) メタテシス

bilzek 「指輪」	bihilex 「指輪」
dīrgak 「爪」	tījīrax 「爪」
ögbe 「先祖」	öbüge 「先祖」
ezeŋgi 「あぶみ」	iŋehe 「あぶみ」

3. 語幹末の音形の対照

動詞語幹末および形容詞語幹末の音形に関しても、興味深い対応が見られた。本節では見つかったすべての例を示すことにする。

3.1 動詞語幹末の音形

本節では動詞語幹末の音形を対照する。サハ語では、動詞語幹末に短母音は現れない。トゥバ語において動詞語幹末に短母音を持つ場合には、サハ語では子音添加、母音延長、母音脱落のいずれかの方法により語幹末の短母音を回避している。

子音添加がされるケースでは、多くの場合に語幹末に /y/ が添加される¹¹。ただし(44)のように、/y/ 以外の子音が添加されるものも散見される。

(43) トゥバ語語幹末短母音：サハ語/y/添加

aarī- 「痛む, 病む」	īarīy- 「痛む, 病む」 (īalž-ar)
aži- 「酸っぱくなる」	ahīy- 「酸っぱくなる」
amza- 「味見する」	amsay- 「味見する」
idege- 「信じる」	itekey- 「信じる」
kiži- 「かゆい」	kīhīy- 「かゆい」
silgi- 「揺り動かす」	ilk- 「投げ捨てる」
sögürü- 「礼拝する」	sügürüy- 「崇拝する」
sīrī- 「合わせ縫いする」	siriy 「合わせ縫いする」
čīdī- 「腐敗する」	sītīy- 「腐敗する」
čīli- 「暖くなる」	sīliy- 「暖くなる」
čuru- 「描く」	suruy- 「書く」
širbi- 「掃く」	sippiy- 「掃く」
šīla- 「疲れる」	sīlay- 「疲れる」
udu- 「眠る」	utuy- 「眠る」

¹¹ 語幹末が短母音ではないが, *soo-* 「寒くなる」と *soy-* 「冷める」という対応も見つかる。

üžü- 「凍傷になる」	ülüy- 「凍傷になる」
üre- 「壊す」	ürey- 「崩す」
ergi- 「回る」	ergiy- 「回る」

(44) トゥバ語語幹末短母音：サハ語子音添加 (/y/以外) ¹²

kede- 「待ち伏せする」	ketes- 「待つ」
üle- 「分ける」	üller- 「分ける, 配分する」
čoru- 「行く」	sirit- 「(動いて) いる」(silž-ar)
ere- 「祈る, 願う」	eren- 「願う」

母音延長が生じる例には次のようなものがある。両言語において極めて生産的な派生接辞による出名動詞も同様の対応を示す：*šay-la-*「お茶を飲む」と*čey-dee-*「お茶を飲む」、*üt-te-*「穴を開ける」と*üüt-tee-*「穴を開ける」など。

(45) トゥバ語語幹末短母音：サハ語母音延長

düže- 「夢を見る」	tühee- 「夢を見る」
dürba- 「搔く」	tarbaa- 「搔く」
kište- 「(馬が) いなく」	kistee- 「(馬が) いなく」
töle- 「支払う」	tölöö- 「支払う」
törü- 「(動物が) 産む」	töröö- 「産まれる」
uza- 「長くなる」	uhaa- 「長くなる」
xava- 「合わせ縫いする」	xabaa- 「合わせ縫いする」
xožuda- 「遅れる」	xoyutaa- 「遅れる」
xolba- 「結ぶ」	xolboo- 「結ぶ」
čuda- 「家畜が飢饉にあう」	sutaa- 「飢える」
šida- 「できる」	sataa- 「できる」
šime- 「飾る」	simec- 「飾る」
ilga- 「選び出す」	ilkaa- 「選び出す」

なおサハ語では、単音節の母音語幹動詞は語幹末に二重母音を持つ（江畑 2020: 25）。

¹² トゥバ語 *ira-*「遠ざかる」とサハ語 *iraat-*「遠ざかる」という対応も見つかる。

(46) トゥバ語短母音：サハ語二重母音（単音節語）

či- 「食べる」	sie- 「食べる」
di- 「言う」	die- 「言う」

母音脱落が生じる例には次のようなものがある。

(47) トゥバ語短母音：サハ語母音脱落¹³

bayi- 「富む」	baay- 「富む」
kīrgi- 「刈る」	kīrt- 「刈る」 (kīrg-ar)
öörü- 「喜ぶ」	üör- 「喜ぶ」
örü- 「編む」	ör- 「編む」
ürgü- 「後ずさりする」	ürk- 「(怯えて) 逃げる」 (ürg-er)
eziri- 「酔う」	itir- 「酔う」
eri- 「(雪が) とける」	ir- 「(雪が) とける」

3.2 形容詞語幹末の音形

本節では形容詞語幹末の音形を対照する。(48)に示すように、サハ語では語幹末に付加的接辞要素を含むものが多い。

(48) 形容詞：サハ語で付加的接辞要素

aar 「重い」	iaraxan 「重い, 難しい」
ažik 「開いた」	ahačas 「開いた」
arig 「清潔な」	iraas 「清潔な」
bičii 「小さい」	bīčikay 「ちっちゃい」
kadig 「かたい」	kītaanax 「かたい」
kazir 「不妊の」	kītarax 「不妊の」
kīzaa 「狭い」	kīaracas 「狭い」
kīrgan 「年配の」	kīržacas 「年配の」
kīska 「短い」	kīlgas 「短い」
kurug 「中空の, 空っぽの」	kuraanax 「水気のない, 空っぽの」
sarig 「黄色い」	aracas 「黄色い」
čig 「生の」	siikej 「生の」

¹³ トゥバ語の動詞のうち öörü- 「喜ぶ」と eziri- 「酔う」は、使役接辞付加の際に語幹末母音が脱落し öör-t 「喜ばせる」、ezir-t 「酔わせる」となる。

činge 「細い」	siññiges 「細い」
čook 「近い」	čugas 「近い」
čimčak 「柔らかい」	šimnaŋas 「柔らかい」
čilig 「暖かい」	šilaas 「暖かい」
ulug 「大きい」	ulaxan 「大きい」
eki 「良い」	üčügey 「良い」

さらに、サハ語で部分重複が生じたのではと疑われる例も存在する。

(49) 形容詞：サハ語で部分重複の可能性

čiiik 「軽い」	čepčeki 「軽い，易しい」
šiiik 「浅い」	čičaax 「浅い」

4. 意味のずれ

意味の面から両言語の対応を見ると、身体部位名詞および鳥類名称において顕著なずれを見て取ることができる。本節でも見つかったすべての例を示すことにする。

4.1 身体部位名詞における意味のずれ

本節では身体部位名詞の意味を対照する。意味のずれが見られるケースには、*adak* 「下」のようにトゥバ語で意味変化が生じたと見なせる例も、*sarın* 「肩」のようにサハ語で意味変化が生じたと見なせる例も含まれている。

(50) 身体部位名詞

aas 「口」 (ask-ï)	uos 「唇」
adak 「下」	atax 「足」
but 「足」	buut 「腿」
dovuk 「膝蓋骨」	tobuk 「膝」
kurlak 「腰」	kurtax 「胃」
töš 「胸骨」	tüös 「胸」
xöömey 「喉歌」	küömey 「喉」
čaak 「頬」	šijaax 「あご」
čarın 「肩甲骨」 (čarn-ï)	sarın 「肩」 (sann-a)
ulduŋ 「靴底」	ulluŋ 「足の裏」
ergek 「指」	erbex 「親指」

4.2 鳥類名称における意味のずれ

本節では鳥類名称の意味を対照する。鳥類名称を比べると、(51)のように両言語で音形と意味の両方が類似する例はわずかである。(52)のような付加的接辞要素を含むものを考慮しても、類似例は多いとまでは言えない。

(51) 鳥類名称：類似例

duruyaa 「ツル」	turuya 「ツル」
kuu 「ハクチョウ」	kuba 「ハクチョウ」
kas 「ガチョウ」	xaas 「ガチョウ」
mežergen 「フクロウ」	mekčirge 「フクロウ」

(52) 鳥類名称：付加的接辞要素を含む類似例

kürtü 「クロライチョウ」	kurtuyax 「クロライチョウ」
xaraačigay 「ツバメ」	xarañačči 「ツバメ」
xartiga 「タカ」	kīirt 「タカ」

鳥類名称では、(53)のような両言語の間で異なる音形を持つものが目立つ¹⁴。

(53) 鳥類名称：相違例

das 「ハゲタカ」	kutuyaxsīt 「ハゲタカ」
dīlbīy 「シギ」	ügürüö 「シギ」
deeldigen 「トビ」	elie 「トビ」
kaargan 「カラス」	turaax 「カラス」
kuskun 「ワタリガラス」	suor 「ワタリガラス」
küşkül 「エゾライチョウ」	bočuguras 「エゾライチョウ」
keergen 「ホシガラス」	oŋolo 「ホシガラス」
torga 「キツツキ」	toŋsoxoy 「キツツキ」
ügü 「ワシミミズク」	možugu 「ワシミミズク」
xamnaarak 「ヒバリ」	küöregey 「ヒバリ」
xökpeš 「シジュウカラ」	tatīyik 「シジュウカラ」
šilen 「サギ」	kutan 「サギ」
ezir 「ワシ」	xotoy 「ワシ」

¹⁴ トゥバ語の鳥類名称には、*saaskan* 「カササギ」(サハ語には対応語彙がない)を含め接辞要素 *-gen* を含むと解釈できるものが散見される。

興味深いのは、音形は類似するが意味が異なる例がいくつか見られる点である。

(54) 鳥類名称

köge buga 「鳩」	keke buka 「ゴジュウカラ」
kuš 「鳥（一般）」	kuš 「鴨」
ular 「セッケイ」	ular 「オオライチョウ」

5. まとめ

本稿ではトゥバ語とサハ語の語彙対照を行い、語頭子音を中心とする音対応、動詞および形容詞の語幹末の音形、身体部位名詞および鳥類名称における意味のずれに関してデータを整理して提示した。固有語とモンゴル系言語からの借用語の区別など、検討すべき課題も多く残されている。ここで一定の結論を出すというよりは、両言語間の関係についての将来の研究のための基礎資料としてまず提示したい。

略号一覧

AOR: アオリスト, COND: 条件法, IMP: 命令法, POSS: 所有接辞, PRS: 現在, SG: 単数

参考文献

- Afanas'ev, P.S. and L.N. Xaritonov. (1968) *Russko-jakutskij slovar'*. Moskva: Izdatel'stvo sovetskaja ènciklopedija.
- Monguš, D.A. (1994) *Kratkij russko-tuvinskij slovar'*. Kyzyl: Novosti Tuvy.
- Sleptsov, P.A. (1972) *Jakutsko-russkij slovar'*. Moskva: Izdatel'stvo sovetskaja ènciklopedija.
- Sleptsov, P.A. (2004-2018) *Bol'soj tolkovyj slovar' jakutskogo jazyka*. vol.1-15. Novosibirsk: Nauka.
- Tataritsev, B.I. (2000-2008) *Etimologičeskij slovar' tuvinskogo jazyka*. vol.1-4. Novosibirsk: Nauka.
- Tenishev, E.R. (1968) *Tuvinsko-russkij slovar'*. Moskva: Sovetskaja ènciklopedija.
- 江畑 冬生 (2020) 『サハ語文法：統語的派生と言語類型論的特異性』 勉誠出版.
- 中嶋 善輝 (2006) 『語彙借用に見るモンゴル語とチュルク語の言語接触 —特にカザフ語及びトゥヴァ語との比較を中心として—』 大阪大学言語社会学会.
- 中嶋 善輝 (2008) 『トゥヴァ語・日本語小辞典』 東京外国語大学アジア・アフリカ言語文化研究所.